

大分駅周辺地区

(大分県大分市)

計 画 期 間 平成 17 年度～25 年度

面 積 325ha

交付対象事業費 12,811 百万円

市人口 475,233 人(地区内人口 21,933 人)

ポイント 県都・中核市として多様な都市機能を集積し、大分駅南北における中心市街地の活性化を図り、風格と賑わいのある都市拠点の形成を目指す。

地区概要 道路等の整備による交通機能強化、都市施設の整備による賑わいの創出、案内サイン整備による回遊性の向上を図り、中心市街地を活性化するとともに公園や防災施設の整備により安全で快適な居住環境の創出を図る。

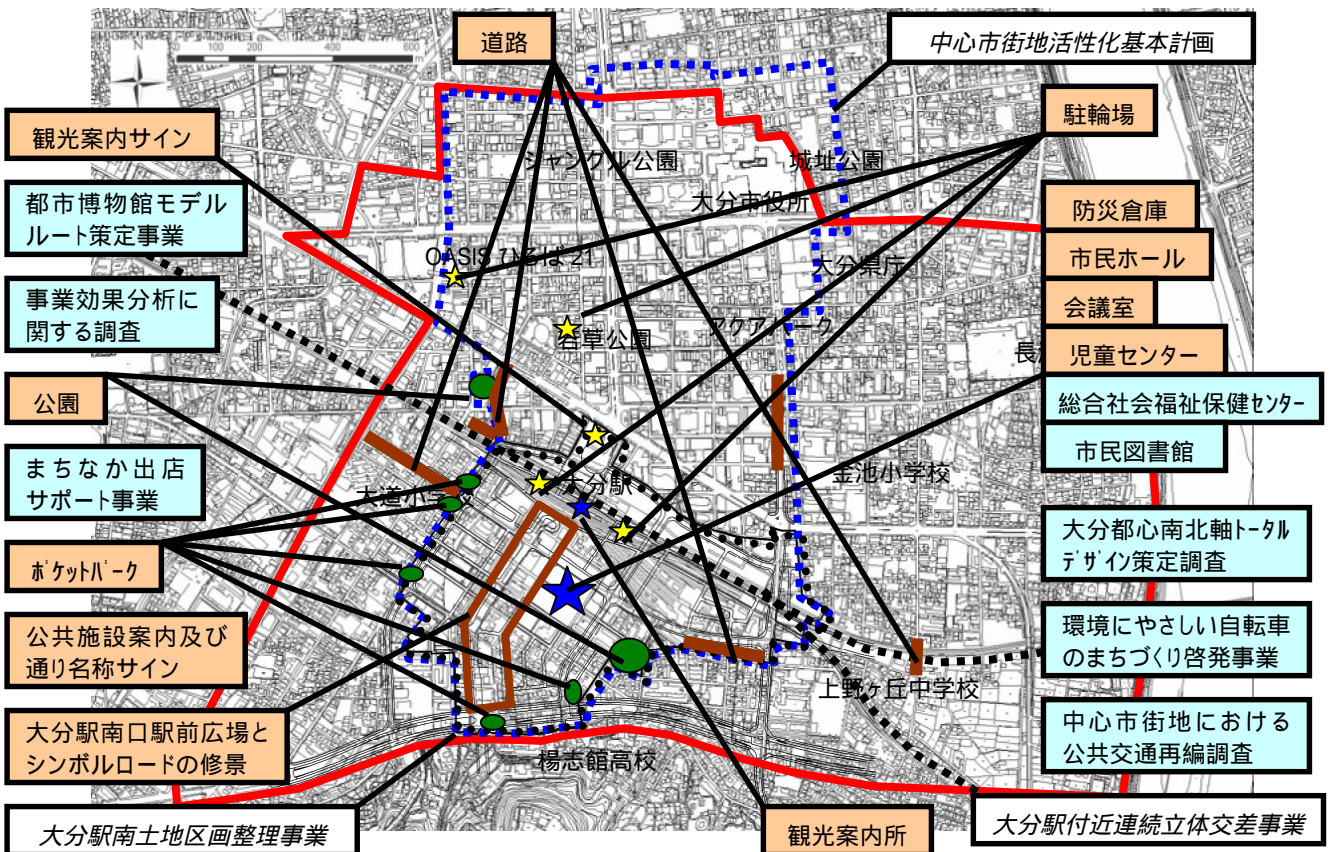
目 標 中心市街地における都市機能の充実及び魅力づくり

指 標 道路・駅前広場・駐輪場の整備により中心部の交通機能強化を図り、サインや都市施設整備による回遊性にぎわいを創出し、併せて安全で快適な居住環境の整備を行う。

歩行者通行量	318,287 人(H20)	350,000 人(H25)
まちなか滞留時間	36.0 % (H20)	40.0 % (H25)
地区内居住人口	21,400 人(H20)	21,900 人(H25)

事業内容 基幹事業(7,977 百万円) 道路(6路線) 公園(3箇所) ポケットパーク(5箇所) 駐輪場(4箇所) 観光案内サイン、公共施設案内及び通り名称サイン、防災倉庫、大分駅南口広場とシンボルロードの修景、市民ホール、会議室、児童センター、観光案内所

提案事業(4,834 百万円) 総合社会福祉保健センター、市民図書館、産業活性化を図る知的拠点、都市博物館モデルルート策定事業、まちなか出店サポート事業、事業効果分析に関する調査、中心市街地における公共交通再編調査、大分都心南北軸トータルデザイン策定調査、環境にやさしい自転車のまちづくり啓発事業



地区の現況と課題

大分駅周辺地区は、県都・大分市の中心部であるが、郊外の大規模開発等の影響により空洞化が進んでいる。

そのようなことから、まち交一期計画を実施し、平成20年7月には「中心市街地活性化基本計画」の承認を受け、中心市街地の再生・活性化に向けた取り組みを行っている。

しかし、関連事業の遅れにより民間開発等が進まず、地区内居住人口の回復は伸び止まり、歩行者通行量等は減少傾向が続いている。

基幹事業の特徴

道路

中心部へのアクセス強化と交通ネットワークの充実を行う。

公園

都心における憩いと潤いを提供し快適な居住環境の形成を行う。

地域生活基盤施設

案内サイン、ポケットパーク、駐輪場等の整備を行い、来街者に対する情報提供と円滑な誘導を図る。

高質空間形成施設

駅前広場やシンボルロードの修景を行い、大分の中心部にふさわしい景観を創出する。

高次都市施設

市民ホールや会議室、児童センター、観光案内所の整備により、中心部の交流と賑わいを創出する。

提案事業の特徴

地域創造支援事業

- ・総合社会福祉保健センター、市民図書館、産業活性化を図る知的拠点の整備により中心部の交流と賑わいを創出する。
- ・都市博物館モデルルート策定により、地域資源の活用と回遊性の向上を図る。
- ・まちなか出店サポート事業により、中心部の空き店舗解消と賑わい創出を図る。

事業活用調査

- ・中心市街地における公共交通再編調査により、バスを中心とした公共交通再編策を検討する。
- ・大分都心南北軸「外ヶ谷」策定により、賑わいの創出と人にやさしい魅力ある都市空間としての整備につなげる。

まちづくり活動推進事業

環境にやさしい自転車のまちづくり啓発事業により、自転車利用の意識の向上と醸成を図る。

計画策定プロセス

まち交一期計画について学識経験者や市民団体等で組織された事後評価委員会で審議し、二期計画についてはアンケート調査による事前評価を行い、約84%の賛同を得た。

また、各施設については、ワークショップやパブリックコメント、外部委員会による検討等を行っている。



複合文化交流施設の整備イメージ



大分駅を中心とした道路の整備状況



ポケットパークの整備状況



啓発活動イメージ



事後評価委員会の状況